

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190600011		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐南		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町徳田7丁目73番地-1		
自己評価作成日	平成29年 8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&jiyosyoCd=2190600011-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年 8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前より、病院への依存度が高く、ご家族様の高齢化や車に乗れない方、遠方の方等もございまして、主治医以外の受診等もご家族対応ではなく、スタッフが行なっております。

1週間に一度外出支援日を設けて、喫茶店同行、買い物支援等を行なっています。おやつ時には、飲みたい物をお聞きして好きな物を飲んで頂いています。

裏の畑にきゅうり、トマト、ナス、ピーマン、ゴーヤ等植えて朝夕の水遣りや収穫を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を中心に、利用者の支援に笑顔添えて職員が一致団結して取り組んでいる。本年、同法人の他のホームから着任した管理者は、介護、管理両面の豊富な経験を活かし、入職1年未満の複数の職員の指導にベテラン職員と共に親身にあたり、職員の信頼を得ている。職員は管理者の指導の下、利用者の気持ちに沿う支援に努め、利用者が穏やかに暮らせるよう誠実な支援に努めている。利用者が不穏な状態にある時には、管理者を中心に不穏の原因をつきとめ、利用者、家族と面談の機会を設けて不穏解消の対策について話し合い、納得を得て取り組んでいる。そのような管理者の精力的な姿勢を見て、職員は管理者を道しるべに利用者の理解を深め、一律だった支援が利用者に合わせて支援に変化しつつある。これからは楽しみなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝夕の申し送り時、MCSの運営理念と身体拘束の取り扱いに関する基本方針・クレドの普通の生活とは・ケアの信条を唱和している。	法人理念をホーム内に複数掲示し、朝・夕礼に唱和している。法人理念を唱和することにより、理念は職員に浸透している。	新人職員の多いことから、理念を実践にどう反映するかは今後の課題と言えよう。周知した理念を、職員の日々の支援に繋げる施策について一考願いたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1~2度のペースで交流できている	町民の集会に出かけ、老人会、子供会の交流を楽しんでいる。管理者は、民謡の経験や自慢の喉を活かして地域の集いを慰問している。ホームは中学生、大学生の研修や町内の子供神輿を受入れて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や包括支援センター主催の「認知症サポート講座」に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告・行事内容やご利用者様への取組みの報告を行い、意見を頂く事で向上に努めている。	年6回開催の運営推進会議には地域、行政が参加し、家族の参加は少ない。利用者ごとの課題と対策を具体的に報告し、参加者の意見を確認している。地域、行政参加者はホーム運営に積極的に意見を表している。	ホーム運営の主役である、利用者、家族の参加を得て、意見を表す機会としたい。一人でも多くの家族が参加できるよう、働きかけを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者様の紹介で入居して頂いたり、推進会議にも参加して頂いたり、認知症サポーターの講座を依頼されたりしている。	管理者は報告、相談、手続きに行政を訪問し、行政からは入居者の紹介もある。行政主催の認知症カフェに参加し、行政から認知症関連の講習会の講師の依頼を受け、職員を派遣して協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度マニュアルに沿って研修を行なっている。普段の業務の中でも不適切なケアを行わない様指導している。玄関の施錠は外部からの不審者防止のためにも行なっている。	安全、防犯を優先する法人の方針に沿い、玄関を施錠している。ホーム内の2階に続く階段、エレベーターは開放している。職員は研修を受け、定期的に書面による拘束に関わる振り返りを実施し、拘束のない支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1度不適切ケアのチェックを行い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度は、資料を基に研修を行い理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の時、重要事項の説明を、十分時間をかけて行い、不安や疑問を尋ね、理解して頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時、管理者や職員にも要望が言える状態にして、すぐに運営に反映するようにしている。	家族に利用者の様子を伝える便りを送付し、電話連絡を行って家族の意見を確認するよう努めている。利用者、家族の悩みや課題のある場合は面談の機会を設け、解決に向けて話し合うよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議や各ユニットでケアカンファレンスを行い、要望や提案を聞いたり、個人的にも面談を行なって、反映する様にしている。	毎月、全体とユニットごとの職員会議を開催し、職員の意見を表す機会としている。ベテラン、新人職員の関係も良好であり、日ごろから意見の言える風通しの良い環境を築くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人を評価するのはお金とと思っているので、出来るだけ給与の水準を上げれるよう心掛けている。又常に感謝の言葉を口にする様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員・3年未満・5年以上とそれぞれの年代に分け、研修を受ける機会を確保している。又エリアでも研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月代表者の会議を行い、意見交換を行なっている。 夏祭りで施設訪問や、お互いのイベント等に出席し勉強させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい利用者様とは積極的に会話を持ち危険な事は皆で共有し安心して過ごして頂ける様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には特に詳細に要望をお聞きし、お便り等で要望を聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の要望をしっかりと聞き取り、その都度必要とされている事を支援する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、経験談を傾聴しながら、出来る事を手伝ってもらいながら一緒に行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	若いスタッフが多く、新人スタッフもまだ日が浅い為、一部のスタッフのみで、共に支えていく関係はなかなか築けていない		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問サービスで歯科や美容院等がありますが、訪問を利用するのではなく、個々で馴染みの場所に行っている。	行きつけの美容院外出、顔馴染みの喫茶店通い、家族との墓参り等を支援している。趣味や習慣の継続支援にも努め、飲酒の習慣の継続や、歌好きの利用者は居間で歌のテレビ番組を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階、2階関係なく、一緒にレクレーションを行ったり、散歩やお茶を飲んだり交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や、行事の案内を継続しており、時には来所して下さったり、電話頂いたりもする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や希望している事をお聞きし、支援している。 本人様が拒否された場合は本人の意向を尊重し、無理強いしない。	職員は利用者の会話から得た利用者の思いや意向をホームの所定用紙にありのまま記し、職員間で共有する仕組みを設けている。	利用者の思いや意向を漏れなく把握することは、職員により個人差がある。利用者の思いや意向の把握の意義を職員全体で共有し、介護計画の作成にも活かされたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに記入し周知するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や介護記録を見て心身状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・医師・包括等と連携し、計画を作成している	利用者、家族の意見を確認し、定期的にモニタリングを実施して、3か月を基本に介護計画を見直している。介護計画の目標は、利用者の状態を把握し、身体上の支援と利用者の思いを反映した内容であった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やスタッフとの会話、申し送りノート等を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室でご飯を食べたい方は居室で、受診必要な時は、ご家族様に連絡し医師の指導の元、受診対応等行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時や災害時には協力して頂ける様努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向で希望のかかりつけ医で対応している	かかりつけ医は利用者、家族の希望医としており、通院は家族対応であるが、難しい場合は職員が対応している。ホーム協力医は訪問看護師と連携し、24時間体制を敷いて利用者の健康について手厚く支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化を察知し、訪問看護師に連絡し適切な受診や看護を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には十分に医師の説明を受け、必要に応じて介護計画の変更を行い、頻りに面会を行い関係を深める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・医師・看護師・ホーム側とで話し合いの場を設け、事業所で出来る事を話し合い、最後は病院へと搬送する。	経験の少ない若手職員が多いことから、管理者は看取りの受入れは時期尚早としている。利用者の重度化の局面には、家族、医療関係者と話し合いを行い、適切な次の棲家の移動支援に努めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や、初期対応の訓練は、定期的に行なっているが、新入社員が多い為、全員は実践力は身に付いていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実践しており、消防署の指導の元、夜間想定、日中想定と各1回づつ避難訓練を行なっている。	年2回の訓練を実施している。直近の訓練は避難、通報訓練を実施し、立ち合いの消防署員からホームの防災意識に高評価を得た。職員はAEDを使った救命講習に参加し、自動火災通報装置の設置を完了した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格を見極め、友達扱いのような言葉かけをしすぎないように敬語で対応する事を心掛けている。ご利用者様の部屋に入る際も玄関という意識を持ち、必ずノックしてから訪室するよう努めている。	新人職員の多いことから、ベテラン職員が利用者個別に望む支援を説明し、利用者本位の支援となるよう取り組んでいる。異性の支援の苦手な利用者は同性介助とするよう配慮している。	トイレ介助の際に、ドアを開放した状態の支援が見られた。利用者の誇りを損なうケースであり、「不適切ケアのチェックリスト」に照らし、職員の意識について再点検を望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の水分など本人様に飲みたい物を確認する等している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まりはあるが、本人様のペースに合わせて入浴や外出を決定している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1名の方がどうしても入浴や着替えに抵抗があり毎日の交換が行えていませんが、自尊心を傷つけない支援ができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は個別で対応。 食事中のお話や下膳、お盆拭き等を行って頂く事もある レクとしてお菓子作りを共にする事もある	調理専門職員を配し、通常の献立とは別に毎月行事食として安全を確認した上での刺身の提供、おせち料理、おでん、お好み焼きに加え、メニューを見て選ぶ出前弁当等、利用者の楽しみの食事を演出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理に沿って食事を作ることで、栄養が偏らないよう支援をしている。 水分摂取が少ない方はゼリーや様々な飲み物を試す		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は洗浄 うがいや歯磨きを本人様の力に応じて行って頂いている 出来ない人には介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がある方については、歩行時・立ち上がり時の転倒に気を付けながら、トイレにて排泄して頂いている。おむつの方については、体位交換を動ける所まで動いて頂くよう努めている。	排泄記録を参考に毎月の職員会議に快適な排泄支援を取り上げ、支援方法を決めている。誘導、声掛けを小まめに行い、失禁を改善した例もある。便秘や下痢は必要に応じて医療関係者と相談し、適切に対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課として、朝のラジオ体操、廊下の歩行等で腸の働きを良くする。水分が不足している方にはゼリーなど口当たりの良い物を摂取して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や男女のこだわり、又外出の前日等、個々の希望に合わせて、職員や時間を考慮して対応している。又、馴染みのシャンプーを使用しており、個々に沿った支援を行っている。	週2回を基本に入浴を支援している。長湯、湯温、入浴希望時間に柔軟に対応し、季節の柚湯や入浴剤を導入し、入浴を楽しめるよう支援している。利用者が入浴を望まない場合は、無理強いせずに日を改めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お好きなテレビを観て頂いたり、写真や飾り物を楽しんだり、安心して過ごして頂ける様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を随時チェックして用法の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある役割を持って頂き、強制しないでご自分のペースで行って頂くよう努める。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食は日を決めているがホーム周りの散歩や水やり等なるべく希望に添えるように行っている しかし行く場所は固定されてしまっている	週1回の外出支援を合言葉に日課の散歩、喫茶店、外食、買い物、和菓子付きの花見等を個別外出を主に支援している。ホーム敷地内の菜園の世話や収穫を楽しみ、それを外気に触れる機会としている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員にはお金の管理の重要性を教え、ご利用者様の希望に応じてなるべく要望に沿えるよう お金の所持、使用を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	見守りの中ではあるが電話も非常識な時間で ない限りは対応させて頂く		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、花を活けたり、音楽が流れたりゆっくりとした時間が流れている。廊下の照明も邪魔にならない様に配慮してある。	清掃職員の定期清掃の他、毎日利用者と職員が日課の掃除を行い、嫌な臭いのない清潔な環境を保持している。居間の大きな窓から十分な採光を取り入れ、仲良しの利用者と職員が居間のテーブル席とソファで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間ではお気に入りの廊下の椅子に座ったり、ソファに座ったり、テーブルの方や居室内で過ごす人、それぞれ好きな所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのタンス、好みの道具を置く事で安心出来る環境づくりに努めている。	居室に思い出の品や馴染みの家具を自由に持ち込んでいる。テレビや折り紙作品、置時計等が並び、冷蔵庫には好きな漬物や飲み物を保管し、仏壇に遺影、位牌を置き、毎朝ごはんを供えて亡き人を偲んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身のタイミングで動ける事、転倒のリスクを軽減できるよう、導線が多くある環境作りを心掛けている。又、動作がゆっくりな方や、間違った動きをしている方でも、すぐに職員が介助してしまうのではなく、安全な範囲で見守っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190600011		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐南		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町徳田7丁目73番地-1		
自己評価作成日	平成29年 8月 8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2190600011-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年 8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前より、病院への依存度が高く、ご家族様の高齢化や車に乗れない方、遠方の方等もございまして、主治医以外の受診等もご家族対応ではなく、スタッフがこなっております。

1週間に一度外出支援日を設けて、喫茶店同行、買い物支援等を行なっています。おやつ時には、飲みたい物をお聞きして好きな物を飲んで頂いています。

裏の畑にきゅうり、トマト、ナス、ピーマン、ゴーヤ等植えて朝夕の水遣りや収穫を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝夕の申し送り時、MCSの運営理念と身体拘束の取り扱いに関する基本方針・クレドの普通の生活とは・ケアの信条を唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1~2度のペースで交流できている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や包括支援センター主催の「認知症サポート講座」に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告・行事内容やご利用者様への取組みの報告を行い、意見を頂く事で向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者様の紹介で入居して頂いたり、推進会議にも参加して頂いたり、認知症サポーターの講座を依頼されたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度マニュアルに沿って研修を行なっている。普段の業務の中でも不適切なケアを行わない様指導している。玄関の施錠は外部からの不審者防止のためにも行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1度不適切ケアのチェックを行い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度は、資料を基に研修を行い理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の時、重要事項の説明を、十分時間をかけて行い、不安や疑問を尋ね、理解して頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時、管理者や職員にも要望が言える状態にして、すぐに運営に反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議や各ユニットでケアカンファレンスを行い、要望や提案を聞いたり、個人的にも面談を行なって、反映する様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人を評価するのはお金と思っているので、出来るだけ給与の水準を上げれるよう心掛けている。又常に感謝の言葉を口にする様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員・3年未満・5年以上とそれぞれの年代に分け、研修を受ける機会を確保している。又エリアでも研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月代表者の会議を行い、意見交換を行なっている。 夏祭りで施設訪問や、お互いのイベント等に出席し勉強させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に話を傾聴し、ご本人の不安や要望を聞き、サービスに取り組み安心して頂けるようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には特に詳細に要望をお聞きし、お便り等で要望を聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の要望をしっかりと聞き取り、その都度必要とされている事を支援する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、経験談を傾聴しながら、出来る事を手伝ってもらいながら一緒に行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	若いスタッフが多く、新人スタッフもまだ日が浅い為、一部のスタッフのみで、共に支えていく関係はなかなか築けていない		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や馴染みの方との交流を継続している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階、2階関係なく、一緒にレクリエーションを行ったり、散歩やお茶を飲んだり交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や、行事の案内を継続しており、時には来所して下さったり、電話頂いたりもする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や希望している事をお聞きし、支援している。 本人様が拒否された場合は本人の意向を尊重し、無理強いしない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに記入し周知するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や介護記録を見て心身状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・医師・包括等と連携し、計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やスタッフとの会話、申し送りノート等を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室でご飯を食べたい方は居室で、受診必要な時は、ご家族様に連絡し医師の指導の元、受診対応等行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時や災害時には協力して頂ける様努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向で希望のかかりつけ医で対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化を察知し、訪問看護師に連絡し適切な受診や看護を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には十分に医師の説明を受け、必要に応じて介護計画の変更を行い、頻りに面会を行い関係を深める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・医師・看護師・ホーム側とで話し合いの場を設け、事業所で出来る事を話し合い、最後は病院へと搬送する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や、初期対応の訓練は、定期的に行なっているが、新入社員が多い為、全員は実践力は身に付いていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実践しており、消防署の指導の元、夜間想定、日中想定と各1回づつ避難訓練を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人に対するマナー、敬語で会話する、行動を起こすときには、まず声掛け、居室に入る時にはノックを忘れず行う様になっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝ご自分で衣類の選択、御飯の硬さ加減、お茶の種類、嗜好品、等々ご本人の希望で行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴等、予定はしているが、ご本人様の気分次第で居室での食事、入浴の変更も多々あります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪や髭等伸びてきたら、ご家族様が同行される方以外は、家族様、ご本人の承諾の元スタッフがカットしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態はもちろん、本人の意向をお聞きした上で、その都度対応している。おはぎやいなり寿司等利用者様も一緒に手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による、栄養管理に沿って食事を作る事により、栄養が偏らない様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の能力に応じ口腔ケアを行なっている。出来ない人には介助にて行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がある方は、早めに誘導行かないトイレで排泄して頂く。居室内のポータブルで行う方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課として、朝のラジオ体操、廊下の歩行等で腸の働きを良くする。水分が不足している方にはゼリーなど口当たりの良い物を摂取して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望、で午前浴だったり午後浴だったり、昨日入った事忘れて次の日も入られたり、汚染され急遽入浴して頂くときなど、個々に沿った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お好きなテレビを観て頂いたり、写真や飾り物を楽しんだり、安心して過ごして頂ける様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を随時チェックして用法の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある役割を持って頂き、強制しないでご自分のペースで行って頂くよう努める。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や体力を不安がられ、行く意欲が低下してしまっている。家族様との外出機会もない。 スタッフが散歩や外食に行く支援をしているが、普段は行けない様な場所等は行けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を使う大切さを理解しており、パン屋さんが来る日等は財布を持ち支払って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙書く事は中々出来ないが、電話は希望時掛けたり、受けたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、花を活けたり、音楽が流れたりゆっくりとした時間が流れている。廊下の照明も邪魔にならない様に配慮してある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間ではお気に入りの廊下の椅子に座ったり、ソファに座ったり、テーブルの方や居室内で過ごす人、それぞれ好きな所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのタンス、好みの道具を置く事で安心出来る環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身のタイミングで動ける事、転倒のリスクを軽減出来るよう環境作りに努めている。		